

Kwibuka30 in Nagasaki プログラム 「学び」と「祈り」を長崎から世界へ

第一部 Remember ルワンダ大虐殺を学ぶ。過去、現在、そして未来ー

講演1 1994年 ルワンダ内戦から30年。戦禍から現在まで、私を支え続ける「希望」の光
NPOルワンダの教育を考える会 理事長 永遠瑠マリールイズ

※ルワンダ大虐殺（ルワンダ・ジェノサイド）：The 1994 Genocide against the Tutsi.

講演2 2024年 私たちルワンダが描く平和な社会の実現に向けて
駐日ルワンダ共和国大使 ムカシネ・マリー・クレール

第二部 Unite ルワンダと想いをひとつに。長崎から世界の平和を祈るー

公益財団法人 長崎平和推進協会 理事長 調 漸（しらべすすむ）氏
長崎県宗教者懇話会顧問 カトリック長崎大司教区 名誉大司教 高見三明氏
参列者メッセージ

長崎平和推進協会 継承部会 八木 道子氏

長崎大学大学院多文化社会学部研究科 研究生 西山 心氏

第三部 Renew ー歌と灯のフィナーレー

寺井一通と合唱団「ひまわり」（主宰 寺井一通氏 団長 田崎禎子氏）

Kwibuka30 とは

Kwibuka とは「記憶」を意味するルワンダ語です。「30年前に起きたツチ族に対するジェノサイドを忘れてはならない」。毎年、悲劇が始まった4月7日から100日間、100万人以上の奪われた命のことを思い起こします。被害者と加害者のそれぞれの体験に耳を傾けて、共に生きる大切さを再確認して同じ過ちを二度と繰り返さない国づくりを誓い合います。Kwibukaにはそうした想いが込められています。悲劇から30年。最後の被爆地長崎で「学び」と「祈り」の時を共に過ごすことを目的にKwibuka30 in Nagasakiを開催します。



国境を越え、世代を超えて「平和」を紡ぎましょう

去る5月26日（日）から28日（火）の3日間、永遠瑠マリールイズさんが長崎に滞在。Kwibuka30 in Nagasakiの開催に向けて、ご協力いただく皆様を表敬訪問しました。「私が伝えたいことは、悲劇ではなく希望」、「教育こそ大切です。学ぶことは生きることなのです」。被爆体験を若者たちに語り続ける八木道子さん、長崎大学で教鞭を執る中村桂子准教授、長崎大学大学院で研究生として学ぶ西山心さん達とも精力的に対話を続けました。平和を希求する者同士、異なるバックグラウンドの中で生きるからこそ、本質的な共感・共鳴の連鎖が生まれました。6月17日（月）は、国境を越え、世代を超えた「平和」の想いが紡がれていくスタートラインとなるでしょう。



八木道子さん（長崎平和推進協会継承部会）



長崎大学中村桂子准教授と
同大学院研究生の西山心さん



平和希求の強い想いは
世代を超えて